

マテリアリティの進捗

2023年度にアップデートしたマテリアリティの進捗状況は以下のとおりです。

マテリアリティと2025年度目標に対する進捗状況

マテリアリティ	私たちの想い	主な価値創造の貢献分野	2025年度目標	進捗状況（主な2024年度実績）
社会課題を解決するモノ、コトの実現	企業理念に掲げた「進取の精神」のもと「社会の大丈夫をつくっていく。」、すなわち、止まることが許されないミッションクリティカルな商品・サービスの提供を通じて社会課題を解決していくことは、OKIグループとして不変のあるべき姿であり、不断の努力で取り組んでいきます。	• 安心・便利な社会インフラに貢献 • 働きがいと生産性向上に貢献	• 地域防災の安全確保などに貢献する新商品の開発およびお客様へのシステムまたはサービスの提供 • お客様が本来業務に集中するための業務効率化や労働力不足へ対応するセルフ化・省人化を実現する商品ラインアップの強化	• 緊急通報の多様化、高度化などの課題に対応する商品を展開準備 • 国内外の銀行や、自治体、リテール、鉄道市場へセルフ化・省人化を実現する商品の投入を完了
		• 地球環境の保全に貢献	• 環境貢献売上高比率 35%※3	• 環境貢献売上高比率 45%※3

マテリアリティ	私たちの想い	主な取り組みテーマ	2025年度目標	進捗状況（主な2024年度実績）
事業活動を通じた環境負荷低減	より良い地球環境を次世代に継承するため、グループ全体の環境方針や環境ビジョンに基づき、事業活動を通じた環境負荷低減に取り組みます。	• 自社拠点の環境負荷低減	• 事業拠点におけるCO ₂ 削減率 21.0%（対2020年度）※3 • 工場からの廃棄物の削減 再資源化率 84%以上※3	• 事業拠点におけるCO ₂ 削減率 30.7%（対2020年度）※3 • 再資源化率の維持 86%※3
価値を創出し続ける企業文化への変革	新たな価値の創造には、多様な社会要求の変化に対する柔軟な思考と挑戦が必要です。それを生み出す土台が人的資本の充実やダイバーシティ&インクルージョン、ウェルビーイングであり、その上にイノベーション活動があって、変革に結びつくものと考え、各種の取り組みを進めています。	• 全員参加型イノベーションによる価値創出 • 多様な人財が前向きに活躍できる施策の推進	• 「Yume Proチャレンジ」応募数 毎年300件以上※3 • 女性管理職比率 5%以上※1（2026年4月） • ワークエンゲージメント ポジティブ回答率 70%以上※2 • イノベーション人財、グローバル人財、AI人財の育成	• 「Yume Proチャレンジ」応募数 260件※3 • 女性管理職比率 6.1%※1 • ワークエンゲージメント ポジティブ回答率 57%※2 • ハイポテンシャル・イノベーション人財 140名、グローバルリーダー育成研修受講者累計 185名、生成AI利用社員 4,929名※2
持続的成長を支える経営基盤強化	リスク管理とコンプライアンス遵守、人権配慮、サプライチェーンのCSRなどを実践していくことは、社会の一員としての責任を果たすだけでなく、企業価値の向上ひいては社会の持続的成長の実現につながるものと考え、取り組んでいます。	• リスク管理・コンプライアンスの徹底 • 人権尊重の徹底 • 責任ある調達活動の推進	• リスク管理とコンプライアンスが社員に定着している状態 • UNGPに則った体制が整備され、人権デュー・ディリジェンスの継続的な運用と開示ができている状態 • CSR調達推進プログラムの拡充	• コンプライアンス管理者研修受講率 100% など※2 • 各種教育の実施（サステナビリティ教育受講率 99.9%）など※2 • ガイドブックを「OKIグループサステナブル調達ガイドライン」として改訂し、パイロット調査を実施

※1 OKI単体 ※2 OKIおよび国内連結子会社 ※3 OKIおよび連結子会社